



緑内障ってなに?

どんな
病気?

眼圧が高くなって視神経がダメージを受け、失明する可能性がある病気。進行性のため、早期に治療が開始できても、失明してしまうこともあります。また、眼圧の数値が非常に高いと、数日で失明に至るケースも。失明する前(急性期)に治療を始められれば、見える状態をできるだけ長く保てる可能性もあるので、目の異変に気づいたら早急にかかりつけ医で受診しましょう。

主な
症状

緑内障は進行度により「急性期」と「慢性期」の2つに分けられます。

急性期は、緊急性の高い段階です。早いと数日で慢性期に移行してしまうため、症状が見られたら、すぐに動物病院で受診。一方、慢性期に入ると、眼圧は高いままですが、痛みの症状をはっきり示さないケースもあります。

急性期

症状

- 目をしょぼしょぼさせる
- 白目が充血する
- 顔まわりを触られるのを嫌がる
- 目の痛みから元気がなくなる
- 朝起きたときに片目が開いていない など

特徴

- 目に強い痛みが出る
- 視覚の回復が見こめる
- 早いと数日で慢性期に移行 など



慢性期

症状

- 目がどンドン大きくなる(牛眼)
- 目が小さくなる など

特徴

- 痛みを示す症状があまり見られない
- 視覚が失われる(失明/視覚を回復できない) など



向かって右が牛眼



早期発見
ポイント

症状は朝方出やすい

犬の眼圧は、朝方に上昇するという傾向があります。そのため、朝起きたときに、愛犬が片目を開いていないなどは、見逃してはいけません。

主な
原因

「遺伝的要因」と「ほかの目の病気」の主に2つがあります。

1 遺伝がかわる 原発性緑内障

遺伝的に眼球内の液体が外に抜ける出口が狭く、眼圧が上昇しやすいために発症します。

犬種 柴やアメリカン・コッカー・スパニエルなど

年齢 8~10才での発症が多い 性別 メスの発症がやや多い

2 目の中のほかの病気によって起こる 続発性緑内障

目に起きた別の病気が原因で発症した緑内障のことです。水晶体脱臼やぶどう膜炎が原因になることが多いです。

水晶体脱臼 水晶体が正常な位置からずれる病気で、緑内障の一因に。

ぶどう膜炎 目の中にあるぶどう膜が炎症を起こす病気で、どんな犬でも発症する可能性があります。

主な
検査

緑内障の診断には眼圧測定が重要です。ただし、眼圧は変動するため、正確に診断するには、眼球の大きさを見る超音波検査や視神経を調べる眼底検査など、専門的な検査が必要です。

主な
治療

急性期には、視覚回復のために眼圧を下げる治療を行います。点眼治療のほか、原発性緑内障では外科手術を行うことも。治療の目的は進行を遅らせるため、いずれ失明してしまう場合が多いです。すでに失明している慢性期では、目の痛みを取り除く治療がメインになり、点眼治療のほか、外科手術を行うことも。また、続発性緑内障では、原因の病気の治療も行います。

いぬに多い病気、そこが知りたい! は「いぬのきもち」で連載中!

●こちらは、掲載した記事を再編集したものです。

アニコム損保ご契約者が
マイページから定期購読を申込みと
2号 (2ヶ月分) **無料!!**

